いながわ特派員報告

鎌屋 郁子

本田 さとみ

昭和の遺産 静思館（せいかん）

猪名川町役場の南側に静かにたたずむ静思館。ここは美術商であり、資産家でもあった冨田熊作氏（故人）の邸宅でした。昭和7年から3年間という長い歳月をかけて建られたこの邸宅は、今では大変貴重な建築物です。昭和59年に町がこの冨田邸を譲り受け、現在では誰でも自由に観覧できるよう開放されています。また、文化活動の場としても多くの人に利用されています。

訪れた人を古き良き時代への郷愁に誘う静思館を、皆さんにご紹介します。

静思館は、茅葺きで総ヒノキ造りの母屋と４つの土蔵（衣装蔵・書斎蔵・中蔵・乾蔵）からなる２００坪の純和風建築物です。持ち主であった冨田熊作氏は、自らの財力と美術商として長年養われてきた目で、全国から選りすぐりの良材を集め、また外国からの輸入品も使い、この邸宅を造り上げました。総工費は当時の金額にして10万円。これは、昭和７年度の中谷村（現在の猪名川町南部）の予算の２倍以上にあたります。

母屋には和室が７室と内庭に面して茶室が設けられています。この大きな邸宅を維持していくために、使用人約20人が働いており、邸内は大変活気に満ちていたと想像できます。

水洗トイレ・床下暖房を完備する家

冨田熊作氏は、昭和７年に邸宅を建築する際、兵庫県下で民家としては初めての試みである水洗トイレを設置しました。やぐらの上に貯水槽を設置し、ポンプで井戸水を汲み上げ、現在の水洗トイレ同様の方式で使用していました。

書斎蔵には、当時外国で使用されていたオンドル床下暖房が用いられていました。15畳ほどの畳の下に、厚さ10cmの鉄板を敷き、その下の地下室に火床を造り炭火などを利用して暖めていました。熊作氏は冬でも暖かいこの部屋で、長い時間をかけて、古美術品を調べていたそうです。

彼は海外で水洗トイレ、床下暖房の良さを実感したのでしょう。今では当たり前のように生活の中に溶け込んでいる設備を、昭和の初期に利用している家が猪名川町にあったことは大変な驚きでした。

明治・大正・昭和に活躍した美術商
冨田熊作氏

▲日本旅行中のバウアー婦人（左）と冨田熊作氏（中央）

冨田熊作氏は、明治５年中谷村上野に、庄屋、冨田太郎右衛門の次男として生まれました。12歳の時、神戸にある池田合名会社（古美術貿易商）に勤めます。大変な努力家であった彼は、仲間が寝静まった後、独学で英語や会計学を学び、古美術の基礎も学んだと言われています。

明治36年、熊作氏は山中商会に入社します。この会社は東洋古美術の貿易を手がけており、顧客には英王室をはじめ、ロックフェラーやフェノロサ、モースなどがいました。ほどなく彼は山中商会のロンドン支店長となり、欧米の大コレクターを相手に商売を任されます。

大正11年、50歳で山中商会を退社後、京都に住み美術商を営みます。この頃、スイスの大富豪アルフレッド・バウアーのコレクション収集を手がけたのは有名です。

故郷中谷村に帰った熊作氏は現在静思館と呼ばれる邸宅で晩年を過ごし、昭和28年、82歳の生涯を閉じました。

日本の原風景がここに ～ふるさと館学芸員 藤岡 真澄さんのお話～

この家は贅沢に造られていますが、そこに住む人達の生活は決して無駄がありません。雨水タンクを設置するなど、今でいうリサイクルの上に成り立っています。これが日本の住まいの原風景ではないでしょうか。主を失った家に人が出入りし、集うことで家はよみがえり、私達に語りかけてくれます。皆さんも静思館を訪れ、日本の良さ、和の心を感じ取っていただければ、と思います。

今では珍しい昭和初期の台所がそのまま残っています

平成の静思館では

▲11月12日、茶室にて、茶道協会によるお茶会が開かれ私達も参加させていただきました。風情あふれる茶室でいただくお茶は格別で、静思館の名にふさわしい、心落ち着くひと時でした。

ひょうご住宅百選にも選ばれている静思館は、その貴重な建物や庭を観覧できるだけでなく、和室や茶室の使用もできます。現在、絵画や陶器の作品展、茶会、句会、食事会などに利用されています。昨年度の来館者数は3,065人で前年度より1,000人あまり増えており、徐々に知名度も上がっているようです。

利用者に静思館のこれからについて伺うと、土蔵を喫茶室にする、コンサートを開く、という斬新な意見や、空調を整えて欲しいという希望がありました。町では静思館をさらに活用するため、学識経験者らによる審議会を開き、意見交換されています。この素晴しい施設を、より多くの人に知っていただき、有効利用されることを期待します。

▲10月末に母屋で開催された土熊倶楽部による作陶展には、多くの人が訪れました。近代的な建物とは違い、静思館には展示物を自然に引き立てる独特の雰囲気があります。

来館者にインタビュー

川西市から来られた、遠山啓子さん（左）と森靖子さん（右）

「建物も庭園もとても美しく、心が洗われるようです。」と話され、ゆっくり中庭の散策を楽しまれていました。

静思館の利用は

現在地：上野字町廻22　役場南側

開館時間　午前９時30分～午後４時30分
休館日　月曜日・祝日および12月29日～１月３日
駐車場　役場第１駐車場
部屋の使用などの問い合わせは総務課（　766－8708）へ。

編集後記

取材で静思館を訪れるたびに、敷地内のもみじが色付き、深まりゆく秋を感じました。紅葉している山や庭に、もみじがはらはらと落ちていく様は、大変美しいものでした。

熊作氏が生きておられた頃、冨田邸ではどのように年末の準備をしていたのでしょう。どのようなお正月を迎えていたのでしょうか。

静思館は、過ぎ去った時代に思いをはせる、静かな時間を私達に与えてくれました。

【いながわ特派員】